

日商簿記 2 級直前対策講座

過去問類題を解いた後に、
講師の追加質問に応える事で応用力を高める講座

＜工業＞個別原価計算



過去問類題を解いた後に、講師の追加質問に応える事で応用力を高める講座

(個別原価計算)

まずは第133回の5問を解いて下さい。この回は珍しく第5問で個別原価計算が一応20分でどこまで解けるかを考えてみましょう。

その後も、一応最後まで解く努力をしましょう。例えば35分で解けたとしたら、どこを改善すればスピードアップできるかを考えて下さい。

個別原価計算（過去問 133-5 類題）

最近の本試験は、難解な表現で問われることが多いので、過去問に比べて表現や資料の記し方を大幅に変更しています。

CMC 製作所では、受注生産を行っているので実際個別原価計算を採用している、次の資料を参照して、各問に答えなさい。なお、仕訳と元帳の記入は月末にまとめて行っている。また、当社の月次決算処理において売上原価に賦課される差異は、予定配賦している製造間接費に関する差異のみである

[資料]

工程管理表

製造番号	着手予定	完成予定	着手	完成	引渡
101	1/7	1/28	1/7	1/28	2/4
102	1/11	2/5	1/11	2/5	2/8
201	2/4	2/15	2/4	2/15	2/18
202	2/12	2/25	2/12	2/25	3/1（予定）
203	2/18	3/8	2/18	3/8（予定）	

原価集計表（1 月分）

	101	102	201	202	203
直接材料費	450,000	150,000	—	—	—
直接労務費	700,000	400,000	—	—	—
製造間接費	840,000	480,000	—	—	—

原価集計表（2 月分）

	101	102	201	202	203
直接材料費	—	—	200,000	300,000	400,000
直接労務費	—	200,000	800,000	500,000	300,000
製造間接費	—	240,000	960,000	600,000	360,000

2 月の元帳（勘定記入）（一部）（単位：円）

製造間接費		製 品	
間接材料費	225,000	予定配賦額 (?)	前月繰 1,990,000
間接労務費	600,000	配賦差異 (?)	越 0
間接経費	1,354,000		当月完成 (?)
	(?)		高 1,400,000
			越 (?)
			次月繰 (?)
			越 (?)

問1 2月の仕掛品勘定を完成しなさい

仕 掛 品		(単位：円)
前月繰越 ()	製 品 ()	
直接材料費 ()	次月繰越 ()	
直接労務費 ()		
製造間接費 ()		
(?)	()	

問2 2月の売上原価を計算しなさい

売 上 原 価 = 円

解答

問1 2月の仕掛品勘定を完成しなさい

仕 掛 品		(単位：円)
前月繰越	(1,030,000)	製 品 (4,830,000)
直接材料費	(900,000)	次月繰越 (1,060,000)
直接労務費	(1,800,000)	
製造間接費	(2,160,000)	
	(5,890,000)	(5,890,000)

問2 2月の売上原価を計算しなさい

売 上 原 価 = 円

2. では、講師の質問タイムといきましょう。

次の資料を追加します。

次の空欄を埋めなさい。

	月初棚卸高	当月仕入高	月末棚卸高
直接材料費（素材）	300,000	（ ① ）	200,000
間接材料費（補助材料費）	（ ② ）	250,000	30,000

	前月末払高	当月支払高	当月未払高
直接労務費（賃金）	（ ③ ）	1,900,000	100,000
間接労務費（給与）	130,000	700,000	（ ④ ）

製造間接費は直接作業時間を基準として配賦している。

なお、当社は前年の実績をベースに製造間接費の予算設定を行っている。

- ・ 製造間接費予算 31,104,000 円
- ・ 基準操業度 15,552 時間

経費の内訳は以下の通りである。

電力料金	130,000
保険料	24,000
減価償却費	900,000
水道料金	300,000

当月の直接作業時間を埋めなさい。

番号	102	201	202	203	合計
直接作業時間	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨

2月の製造原価報告書と損益計算書を作成しなさい。

3. 次の質問です。

1. 2. の資料・解答を用いて次の仕訳を作成しなさい。

①当月の材料投入の仕訳

②当月の製造間接費の予定配賦の仕訳

③製造間接費予算のうち変動費予算は 12,441,600 円である。予定配賦で生じた差異を製造間接費勘定から、予算差異勘定と操業度差異勘定に振り替えた。

④当月に掛販売した製品の 20%が返品された。(全製品の原価率は一定とする)

4. 次の条件で仕訳をして下さい。

(損益計算書などの再計算は必要ないものとする)

①当月の材料の掛け購入を行った時に 10%の材料副費を予定配賦していた。掛け購入時の仕訳を行いなさい。

②当社の材料副費は倉庫担当の給料の 10%と倉庫家賃の 20%である。各勘定科目から材料副費勘定に振り替えた。なお、当月の給料は 600,000 円、倉庫家賃は 300,000 円であった。

③材料副費差異勘定に振り替えた。

<解答用紙>

①		②		③		④		
⑤		⑥		⑦		⑧		⑨

製造原価報告書

(単位：円)

I 直接材料費

月初棚卸高	()	
当月仕入高	()	
合計	()	
月末棚卸高	()	(

II 直接労務費 (

III 製造間接費

間接材料費	()
間接労務費	()
電力料金	()
保険料	()
減価償却費	()
水道料金	()
合計	()

製造間接費配賦差異	()	(
当月製造費用		(
月初仕掛品原価		(
合計		(
月末仕掛品原価		(
当月製品製造原価		(

損益計算書

(単位：円)

I 売上高 10,000,000

II 売上原価

月初製品有高	()	
当月製品製造原価	()	
合計	()	
月末製品有高	()	
原価差異	()	(
売上総利益		(

(以下略)

3. 仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				

4. 仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				

<解答>

①	800,000	②	5,000	③	200,000	④	30,000		
⑤	120	⑥	480	⑦	300	⑧	180	⑨	1,080

製造原価報告書

(単位：円)

I 直接材料費

月初棚卸高 (300,000)

当月仕入高 (800,000)

合計 (1,100,000)

月末棚卸高 (200,000) (900,000)

II 直接労務費 (1,800,000)

III 製造間接費

間接材料費 (225,000)

間接労務費 (600,000)

電力料金 (130,000)

保険料 (24,000)

減価償却費 (900,000)

水道料金 (300,000)

合計 (2,179,000)

製造間接費配賦差異 (△ 2,160,000)
19,000)

当月製造費用 (4,860,000)

月初仕掛品原価 (1,030,000)

合計 (5,890,000)

月末仕掛品原価 (1,060,000)

当月製品製造原価 (4,830,000)

損益計算書

(単位：円)

I 売上高 10,000,000

II 売上原価

月初製品有高 (1,990,000)

当月製品製造原価 (4,830,000)

合計 (6,820,000)

月末製品有高 (1,400,000)

原価差異 (19,000) (5,439,000)

売上総利益 (4,561,000)

(以下略)

3.

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	仕掛品 製造間接費	900,000 225,000	材料	1,125,000
②	仕掛品	2,160,000	製造間接費	2,160,000
③	操業度差異	259,200	予算差異 製造間接費	240,200 19,000
④	売上 製品	2,000,000 1,087,800	売掛金 売上原価	2,000,000 1,087,800

4.

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	材料	1,155,000	買掛金 材料副費	1,050,000 105,000
②	材料副費	120,000	給料 倉庫家賃	60,000 60,000
③	材料副費配賦差異	15,000	材料副費	15,000

過去問類題を解いた後に、
講師の追加質問に応える事で応用力を高める講座



部門別原価計算（過去問 135-4 類題）

最近の本試験は、難解な表現で問われることが多いので、過去問に比べて表現や資料の記し方を大幅に変更しています。

CMC 製作所では、製造間接費を部門別に集計しており、その集計は前年度の実績をベースに月次予算部門別配賦表を作成し、機械稼働時間を配賦基準とする予定配賦の方法を行っている。また、補助部門費の配賦は補助部門間のサービスのやり取りを計算上無視する方法で行っている。次の資料を参照して、各問に答えなさい。

[資料]

(1) 補助部門費の配賦に関する月次予算データ

配賦基準	第一製造部	第二製造部	修繕部	倉庫部	合計
修繕時間	60 時間	70 時間	—	20 時間	150 時間
従業員数	30 人	25 人	10 人	5 人	70 人
保全時間	70 時間	60 時間	15 時間	5 時間	150 時間
材料運搬回数	20 回	12 回	6 回	2 回	40 回

(2) 月次の時間に関するデータ（時間）

	# 101	# 102
予定直接作業時間	800	770
予定機械稼働時間	1,500	1,100
実際直接作業時間	780	810
実際機械稼働時間	1,440	1,000

※ # 101 は第一製造部、# 102 は第二製造部のデータである

(3) 当月の製造間接費実際発生額

< 間接材料費 >

月初棚卸高 2,000 円 当月購入高 85,000 円 月末棚卸高 8,000 円

< 間接労務費 >

前月未払額 20,000 円 当月未払額 15,000 円

当月支払額 預り金 10,000 円を控除した金額 200,000 を支払った

< 間接経費 >

42,500 円

なお、上記間接費のうち 182,000 円は第一製造部、残額が第二製造部の間接費である。

解答用紙

問 1

月次予算部門別配賦表

(単位:円)

費目	合計	製造部門		補助部門	
		第 1 製造部	第 2 製造部	修繕部	倉庫部
部門費	345,000	104,000	99,000	78,000	64,000
修繕部費	、				
倉庫部費	、				
製造部門費					

問 2

製造間接費－第 1 製造部

仕 掛 品

諸口	182,000	仕掛品 ()	製造間接費－ 第 1 製造部 ()	
		配賦差異 ()	製造間接費－ 第 2 製造部 ()	
	<u>182,000</u>	<u>182,000</u>		

製造間接費－第 2 製造部

諸口		仕掛品 ()
配賦差異 ()		
()		()

解答

問 1 (各 2 点)

月次予算部門別配賦表

(単位:円)

費目	合計	製造部門		補助部門	
		第 1 製造部	第 2 製造部	修繕部	倉庫部
部門費	345,000	104,000	99,000	78,000	64,000
修繕部費		36,000	42,000		
倉庫部費		40,000	24,000		
製造部門費	345,000	180,000	165,000		

問 2 (各 3 点)

製造間接費－第 1 製造部

仕 掛 品

諸口	182,000	仕掛品 (172,800)	製造間接費－ 第 1 製造部 (172,800)
		配賦差異 (9,200)	製造間接費－ 第 2 製造部 (150,000)
	182,000	182,000	

製造間接費－第 2 製造部

諸口	144,500	仕掛品 (150,000)
配賦差異	(5,500)	
	(150,000)	(150,000)

過去問を解いた後に、講師の追加質問に応える事で応用力を高める講座

(部門別原価計算)

まずは第135回の4問類題を解いて下さい。

一応20分でどこまで解けるかを考えてみましょう。

その後も、一応最後まで解く努力をしましょう。例えば35分で解けたとしたら、どこを改善すればスピードアップできるかを考えて下さい。

では、解説に入ります。

2. では、講師の質問タイムといきましょう

CMC製作所では相互配賦法による原価計算のシミュレーションを行った。

小数点以下は四捨五入する事。

相互配賦法による、月次予算部門別配賦表を完成しなさい。

費目	合計	製造部門		補助部門	
		第1製造部	第2製造部	修繕部	倉庫部
部門費	345,000	104,000	99,000	78,000	64,000
修繕部費	78,000				
倉庫部費	64,000				
小計					
修繕部費					
倉庫部費					
製造部門費					

どうですか？

ほとんど差がなかったですね。であれば単純に計算できる直接配賦法が効率的ですね。

やはり今後も直接配賦法で計算する事に決まりました。

3.

直接配賦法の採用が決まった大阪工場では、製造部門費を固定費と変動費にわけ、公式法変動予算により差異分析を行い、今後の業務改善に活かすことにした。

固変分解の結果は下記の通りである。

	第 1 製造部	第 2 製造部
固定費	105,000	66,000
変動費	75,000	99,000

各部門の予算差異と操業度差異を計算しなさい。

	第 1 製造部	第 2 製造部
予算差異	()	()
操業度差異	()	()

有利差異の場合はF、不利差異の場合はUと()内に書きなさい。

予定配賦と差異計上の仕訳を行いなさい。

第 1 製造部門	< 予定配賦 > < 差異計上 >
第 2 製造部門	< 予定配賦 > < 差異計上 >

4. 各勘定の記入を行いなさい（直接配賦法ベース）

尚、既に記入している項目は実際発生額とする。

製造間接費－第1製造部		仕掛品	
諸口	182,000	仕掛品()	製造間接費－第1製造部 (172,800)
		予算差異()	製造間接費－第2製造部 (150,000)
		操業度差異()	(322,800)
	(182,000)		(182,000)

製造間接費－第2製造部	
諸口	144,500
予算差異()	操業度差異()
()	()

製造間接費－修繕部	
製造間接費	72,000
	第1製造部 (34,000)
	第2製造部 (38,000)
(72,000)	(72,000)

製造間接費－倉庫部	
製造間接費	61,500
	第1製造部 (39,000)
	第2製造部 (22,500)
(61,500)	(61,500)

製造間接費	
諸口	326,500
	第1製造部 (109,000)
	第2製造部 (84,000)
	修繕部()
	倉庫部()
(326,500)	(326,500)

<解答>

費目	合計	製造部門		補助部門	
		第1製造部	第2製造部	修繕部	倉庫部
部門費	345,000	104,000	99,000	78,000	64,000
修繕部費	78,000	31,200	36,400		10,400
倉庫部費	64,000	33,684	20,211	10,105	
小計		168,884	155,611	10,105	10,400
修繕部費		4,664	5,441		
倉庫部費		6,500	3,900		
製造部門費		180,048	164,952		

	第1製造部	第2製造部
予算差異	5,000 (U)	11,500 (F)
操業度差異	4,200 (U)	6,000 (U)

第1製造部門	<p><予定配賦> 仕掛品 172,800 / 第1製造部門費 172,800</p> <p><差異計上> 予算差異 5,000 / 第1製造部門費 9,200 操業度差異 4,200</p>
第2製造部門	<p><予定配賦> 仕掛品 150,000 / 第2製造部門費 150,000</p> <p><差異計上> 第2製造部門費 5,500 / 予算差異 11,500 操業度差異 6,000</p>

製造間接費－第 1 製造部	
諸 口	182,000
	仕 掛 品 (172,800)
	予 算 差 異 (5,000)
	操 業 度 差 異 (4,200)
	<u>(182,000)</u>

仕掛品	
製造間接費－第 1 製造部	(172,800)
製造間接費－第 2 製造部	(150,000)
	<u>(322,800)</u>

製造間接費－第 2 製造部	
諸 口	144,500
	仕 掛 品 (150,000)
予 算 差 異	(11,500)
	操 業 度 差 異 (6,000)
	<u>(156,000)</u>

製造間接費－修繕部	
製造間接費	72,000
	第 1 製造部 (34,000)
	第 2 製造部 (38,000)
	<u>(72,000)</u>

製造間接費－倉庫部	
製造間接費	61,500
	第 1 製造部 (39,000)
	第 2 製造部 (22,500)
	<u>(61,500)</u>

製造間接費	
諸 口	326,500
	第 1 製造部 (109,000)
	第 2 製造部 (84,000)
	修 繕 部 (72,000)
	倉 庫 部 (61,500)
	<u>(326,500)</u>

過去問類題を解いた後に、
講師の追加質問に応える事で応用力を高める講座

総合原価計算編



総合原価計算（過去問 138-5 類題）

最近の本試験は、難解な表現で問われることが多いので、過去問に比べて表現や資料の記し方を大幅に変更しています。

CMC 製作所では、DVD 講座を大量生産しており、製品原価の計算は単純総合原価計算により行っている。次の資料を参照して、各問に答えなさい。なお、原価のアウトプット（貸方）への配分はインプット（借方）の合計金額を合計数量で除した金額による方法で行っている。

[資料]

(1)10月の生産データに関連する資料

9月末日の仕掛品 800kg（加工進捗度 2/4）

正常減損量 200kg

10月末日の仕掛品 800kg（加工進捗度 2/4）

10月の完成品数量 3,000kg

（注）原料は工程の始点で投入している。

(2)10月の原価に関するデータ

9月末日の仕掛品原価（原料費 1,600,000 円、加工費 749,500 円）

10月の製造費用（原料費 7,520,000 円、加工費 7,573,700 円）

問 1 正常減損が工程の終点で発生した場合の総合原価計算表を完成しなさい

問 2 正常減損が工程の 25%地点で発生した場合の総合原価計算表を完成しなさい。

解答用紙

問 1

総合原価計算表

(単位：円)

	原料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	(1,600,000)	(749,500)	(2,349,500)
当月製造費用	(7,520,000)	(7,573,700)	(15,093,700)
合計	(9,120,000)	(8,323,200)	(17,443,200)
差引：月末仕掛品原価	()	()	()
完成品総合原価	()	()	()

問 2

総合原価計算表

	原料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	(1,600,000)	(749,500)	(2,349,500)
当月製造費用	(7,520,000)	(7,573,700)	(15,093,700)
合計	(9,120,000)	(8,323,200)	(17,443,200)
差引：月末仕掛品原価	()	()	()
完成品総合原価	()	()	()

解答

問 1

総合原価計算表

(単位：円)

	原料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	(1,600,000)	(749,500)	(2,349,500)
当月製造費用	(7,520,000)	(7,573,700)	(15,093,700)
合計	(9,120,000)	(8,323,200)	(17,443,200)
差引：月末仕掛品原価	(1,824,000)	(924,800)	(2,748,800)
完成品総合原価	(7,296,000)	(7,398,400)	(14,694,400)

各 2 点

問 2

総合原価計算表

	原料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	(1,600,000)	(749,500)	(2,349,500)
当月製造費用	(7,520,000)	(7,573,700)	(15,093,700)
合計	(9,120,000)	(8,323,200)	(17,443,200)
差引：月末仕掛品原価	(1,920,000)	(979,200)	(2,899,200)
完成品総合原価	(7,200,000)	(7,344,000)	(14,544,000)

各 3 点

過去問類題を解いた後に、講師の追加質問に応える事で応用力を高める講座

(総合原価計算)

まずは第138回の5問類題を解いて下さい。

一応20分でどこまで解けるかを考えてみましょう。

その後も、一応最後まで解く努力をしましょう。例えば35分で解けたとしたら、どこを改善すればスピードアップできるかを考えて下さい。

では、解説に入ります。

2. では、講師の質問タイムといきましょう

情報を追加します。単位は個にかえます。

正常減損は工程の途中で発生したもの（問2）を使いましょう。

わが社では、製品Xを自動イカ焼き機のメーカーに卸していたが、自社でもイカ焼き機を作る事にした。そこで生産ラインを増強し第2工程で製品を作る事にした。

そこで原価計算の方法は、累加法による工程別総合原価計算を行う事にした。

<追加資料：第二工程データ>（先入先出法）

		前工程費	加工費
月初仕掛品	600個 (50%)	3,000,000	1,450,000
当月投入量	2,400個	?	11,000,000
投入合計	3,000個		
当月完成品量	2,000個		
月末仕掛品量	1,000個 (50%)		
産出合計	3,000個		

（原料はすべて第一工程の始点で投入される）

（第一工程完成品のうち一部は他のメカへ販売する為に半製品として倉庫に保管されます）

<第123回類題>

①第二工程仕掛品の下記の数値を埋めなさい

	前工程費	加工費
月末仕掛品		
完成品		

②仕掛品勘定を完成させなさい（第一工程込）

仕 掛 品	
月初有高 ()	製品 ()
原料費 ()	半製品 ()
加工費 ()	月末在高 ()

<解答>

2.

①第二工程仕掛品の下記の数値を埋めなさい。

	前工程費	加工費
月末仕掛品	4,848,000	2,500,000
完成品	9,787,200	9,950,000

②仕掛品勘定を完成させなさい（第一工程込）

仕 掛 品			
月初有高 (6,799,500)	製品	(19,737,200)	
原料費 (7,520,000)	半製品	(2,908,800)	
加工費 (18,573,700)	月末在高	(10,247,200)	

3. 完成品総合原価 [14,394,000]

4.

月末仕掛品原価 [2,959,200]

完成品総合原価 [15,744,000]

等級別と組別に関しては、無料講座を確認頂ければ大丈夫だと思います。

標準原価計算（過去問類題）

最近の本試験は、難解な表現で問われることが多いので、過去問に比べて表現や資料の記し方を大幅に変更しています。

CMC製作所では、DVD講座を大量生産しており、記帳方法に仕掛品勘定の借方に実際発生額を集計する方法の標準原価計算を採用している。次の資料を参照して、各問に答えなさい。なお、差異分析の方法は公式法変動予算によるものとし、能率差異は変動費と固定費からなるものとする。また、当社では原価計算を効率的に処理するために月初仕掛品、月末仕掛品の加工進捗度はいずれも1/2としている。

[資料]

1. DVD講座1個あたりの標準原価

直接材料費 @1,000×3.0kg = 3,000円

直接労務費 @600×2.0時間 = 1,200円

製造間接費 @780×2.0時間 = 1,560円

2. 当月正常直接作業時間 9,000時間

3. 当月生産データ

月初仕掛品は800個、月末仕掛品は400個、当月完成品は4,300個である。

4. 当月実際直接作業時間 8,500時間

5. 当月実際製造間接費

操業度に比例して発生する原価 3,110,000円

操業度に比例せず、固定的に発生する原価 3,780,000円（予算と同額であった）

問1 固定製造間接費の標準配賦率を求めなさい。

問2 当月の標準配賦額を求めなさい。

問3 製造間接費の差異分析を行いなさい。c

問1 固定製造間接費の標準配賦率を求めなさい。

固定製造間接費の標準配賦率 = 円/時間

問2 当月の標準配賦額を求めなさい。

当 月 の 標 準 配 賦 額 = 円

問3 製造間接費の差異分析を行いなさい。

製造間接費総差異=[] (有利 ・ 不利 差異)

予 算 差 異 = [] (有利 ・ 不利 差異)

能 率 差 異 = [] (有利 ・ 不利 差異)

操 業 度 差 異 = [] (有利 ・ 不利 差異)

(注) () 内の「有利」または「不利」を○で囲むこと

解答

問1 (4点)

固定製造間接費の標準配賦率 = 円/時間

問2 (4点)

当月の標準配賦額 = 円

問3 (各3点)

製造間接費総差異 = [] (有利 ・ 不利 差異)

予算差異 = [] (有利 ・ 不利 差異)

能率差異 = [] (有利 ・ 不利 差異)

操業度差異 = [] (有利 ・ 不利 差異)

(注) () 内の「有利」または「不利」を○で囲むこと

過去問を解いた後に、
講師の追加質問に応える事で応用力を高める講
座



収録時、プロモーションとして一部のみの公開予定でしたが、現在は直前対策講座<工業>標準原価計算編は、最後まで無料で公開しています。こちらの講座を参考に、よろしければその他の直前対策講座もご購入ください。

過去問を解いた後に、講師の追加質問に応える事で応用力を高める講座

(標準原価計算)

まずは 135 回日商簿記の出題の意図を確認しましょう

(出題の意図)

標準原価計算は原価管理のために必要不可欠な計算技法です。この原価管理は差異分析を通じて行われます。本問では、差異分析の計算のうち、製造間接費の差異分析を出題しました。ここで、製造間接費は変動予算が適用されていますが、この変動予算がどのような原価で構成されているか、さらには、そこで計算する標準製造間接費と実際に発生した製造間接費との差異を分類して計算できるかを見るための問題となっています。

標準原価計算としては極めて基本的な問題であり、製造間接費の変動予算と実際発生額との関連が理解できれば解答可能な問題です。標準原価計算については、このような基本問題から完全に理解できるよう取り組んでほしいと思います。

(講評)

標準原価計算は、多数の企業において採用されていることもあり、重要な原価計算方法と考えることができます。このこともあり、過去に何度も出題されています。最初は時間がかかるかもしれませんが、基本的な問題から練習することで、十分理解できるものと思われます。しかしながら、今回は、そこまで学習が進んでいない、あるいは、苦手意識などがあるのか、高得点を得ている答案は多いとはいえませんでした。

標準原価計算は重要な計算方法なので、是非とも理解してほしいと思います。そのためには、この計算の仕組みについて、少し時間をかけて理解することが必要です。このように基本的な計算の仕組みを理解することで、計算問題を十分に解答できるようになります。

では第135回の5問を解いて下さい。

一応20分でどこまで解けるかを考えてみましょう。

その後も、一応最後まで解く努力をしましょう。例えば35分で解けたとしたら、どこを改善すればスピードアップできるかを考えて下さい。

では、解説に入ります

2. では、講師の質問タイムといきましょう

情報を追加します。

製品 1 個あたりの標準原価（類題にも記載済）

直接材料費 @1,000×3.0kg =3,000 円

直接労務費 @600 ×2.0 時間=1,200 円

製造間接費 @780 ×2.0 時間=1,560 円

合 計 5,760 円

実際発生額は以下の通りである

直接材料費 @1,100×11,600kg=12,760,000

直接労務費 @680×8,500 時間=5,780,000

製造間接費 6,890,000

合 計 25,430,000 円

①総差異を求めなさい

②下記の差異分析を行いなさい

直接材料費差異	
数量差異	
価格差異	
直接労務費差異	
時間差異	
賃率差異	

③パーシャルプランにて下記の勘定記入を行いなさい

材料 (単位: 千円)	
諸口 ()	仕掛品 ()
()	()
()	()

仕掛品 (単位: 千円)	
月初有高()	製品 ()
材料 ()	月末有高()
賃金 ()	原価差異()
製造間接費()	
()	()

賃金 (単位: 千円)	
諸口 ()	仕掛品 ()
()	()
()	()

製品 (単位: 千円)	
月初有高	売上原価
仕掛品 ()	月末有高()
()	()
()	()

製造間接費	
諸口 ()	仕掛品 ()
()	()
()	()

④シングルプランにて勘定記入を行いなさい

材料 (単位:千円)	
諸口 ()	仕掛品 ()
	原価差異()
()	()

仕掛品 (単位:千円)	
月初有高()	製品 ()
材料 ()	月末有高()
賃金 ()	
製造間接費()	
()	()

賃金 (単位:千円)	
諸口 ()	仕掛品 ()
	原価差異()
()	()

製品 (単位:千円)	
月初有高	売上原価
仕掛品 ()	月末有高()
()	()

製造間接費	
諸口 ()	仕掛品 ()
	原価差異()
()	()

3. 以下の情報を追加しましょう。損益計算書を作成して下さい。

当月の製品の情報を追加します

月初製品 300 個
当月完成品 ?個
合 計 ?個
月末製品 500 個

製品 X の販売単価は 10,000 円である

標準原価差異は月毎に損益計算書に反映させており、その全額を売上原価に賦課する

		<u>月次損益計算書 (一部)</u>		(単位: 円)	
I	売上高		()	
II	売上原価				
	月初製品棚卸高	()		
	当月製品製造原価	()		
	合 計	()		
	月末製品棚卸高	()		
	差 引	()		
	標準原価差異	()	()
	売上総利益		()	

<解答>

①総差異を求めなさい

△2,414,000

②下記の差異分析を行いなさい

直接材料費差異	△1,060,000
数量差異	+100,000
価格差異	△1,160,000
直接労務費差異	△860,000
時間差異	△180,000
賃率差異	△680,000

③パーシャルプランにて下記の勘定記入を行いなさい

材料 (単位: 千円)	
諸口 (12,760)	仕掛品 (12,760)
<hr/>	<hr/>
(12,760)	(12,760)

仕掛品 (単位: 千円)	
月初有高 (3,504)	製品 (24,768)
材料 (12,760)	原価差異 (2,414)
賃金 (5,780)	月末有高 (1,752)
製造間接費 (6,890)	
<hr/>	<hr/>
(28,934)	(28,934)

賃金 (単位: 千円)	
諸口 (5,780)	仕掛品 (5,780)
<hr/>	<hr/>
(5,780)	(5,780)

製品 (単位: 千円)	
月初有高 (1,728)	売上原価 (23,616)
仕掛品 (24,768)	月末有高 (2,880)
<hr/>	<hr/>
(26,496)	(26,496)

製造間接費	
諸口 (6,890)	仕掛品 (6,890)
<hr/>	<hr/>
(6,890)	(6,890)

④シングルプランにて勘定記入を行いなさい

材料 (単位: 千円)	
諸口 (12,760)	仕掛品 (11,700)
	原価差異 (1,060)
<u>(12,760)</u>	<u>(12,760)</u>

仕掛品 (単位: 千円)	
月初有高 (3,504)	製品 (24,768)
材料 (11,700)	月末有高 (1,752)
賃金 (4,920)	
製造間接費 (6,396)	
<u>(26,520)</u>	<u>(26,520)</u>

賃金 (単位: 千円)	
諸口 (5,780)	仕掛品 (4,920)
	原価差異 (860)
<u>(5,780)</u>	<u>(5,780)</u>

製品 (単位: 千円)	
月初有高 (1,728)	売上原価 (23,616)
仕掛品 (24,768)	月末有高 (2,880)
<u>(26,496)</u>	<u>(26,496)</u>

製造間接費	
諸口 (6,890)	仕掛品 (6,396)
	原価差異 (494)
<u>(6,890)</u>	<u>(6,890)</u>

3. 以下の情報を追加しましょう。損益計算書を作成して下さい。

当月の製品の情報を追加します

月初製品	300 個
当月完成品	? 個
合 計	? 個
月末製品	500 個

製品 X の販売単価は 10,000 円である

標準原価差異は月毎に損益計算書に反映させており、その全額を売上原価に賦課する

		<u>月次損益計算書 (一部)</u>	(単位 : 円)
I	売上高		(41,000,000)
II	売上原価		
	月初製品棚卸高	(1,728,000)	
	当月製品製造原価	(24,768,000)	
	合 計	<u>(26,496,000)</u>	
	月末製品棚卸高	(2,880,000)	
	差 引	<u>(23,616,000)</u>	
	標準原価差異	(2,414,000)	(26,030,000)
	売上総利益		<u><u>(14,970,000)</u></u>

直接原価計算・CVP分析

過去問類題を解いた後に、
講師の追加質問に応える事で応用力を高める講座



直接原価計算とCVP分析（過去問 132-5 類題）

最近の本試験は、難解な表現で問われることが多いので、過去問に比べて表現や資料の記し方を大幅に変更しています。

CMC製作所では、当月からDVD講座を大量生産しており、そのすべてを完成し販売した。当月の損益計算書（営業利益まで）は下記の通りである。総原価の各費目を変動費と固定費に原価分解したうえで、以下の問いに答えなさい。

[資料]

損益計算書（営業利益まで）＜CMC製作所の管理様式＞

売上高	24,600,000
売上原価	
材料費	2,900,000
労務費	5,790,000
製造経費	3,510,000
計	12,200,000
売上総利益	12,400,000
販売費および一般管理費	10,960,000
営業利益	1,440,000

<補足事項1>

材料費の内訳

主要材料費	1,800,000
補助材料費	400,000
買入部品費	700,000

労務費の内訳

直接工賃金	3,500,000
間接工賃金	2,210,000
従業員賞与手当	80,000

製造経費の内訳

減価償却費	2,950,000
その他の間接製造経費	560,000

<補足事項 2>

材料費はすべて変動費である

労務費のうち直接工賃金のすべてと、間接工賃金のうち 1,250,000 円が変動費であり、それ以外は固定費である。

製造経費のうちその他の間接経費のうち 190,000 だけが変動費で、その他は固定費である。

販売費および一般管理費のうち完全歩合給の給料 2,000,000 円だけが変動費である、その

他は固定費である。

- (1) 当月の直接材料費総額を計算しなさい
- (2) 当月の製造間接費総額を計算しなさい
- (3) 原価分解の結果を利用し、当月の貢献利益を計算しなさい
- (4) 原価分解の結果を利用し、当月の損益分岐点売上高を計算しなさい
- (5) 当月に営業利益 4,800,000 円を達成するために必要であった売上高を計算しなさい。

解答用紙

(1)

当月の直接材料費総額 = 円

(2)

当月の製造間接費総額 = 円

(3)

当月の貢献利益 = 円

(4)

当月の損益分岐点売上高 = 円

(5)

当月の必要売上高 = 円

解答

(1)

当月の直接材料費総額 = 円

(2)

当月の製造間接費総額 = 円

(3)

当月の貢献利益 = 円

(4)

当月の損益分岐点売上高 = 円

(5)

当月の必要売上高 = 円

過去問類題を解いた後に、講師の追加質問に応える事で応用力を高める 講座

(直接原価計算)

まずは第132回の5問類題を解いて下さい。

一応20分でどこまで解けるかを考えてみましょう。

その後も、一応最後まで解く努力をしましょう。例えば35分で解けたとしたら、どこを改善すればスピードアップできるかを考えて下さい。

では、解説に入ります。

2. では、講師の質問タイムといきましょう

とりあえず、ウォーミングアップ問題

- ①売上高営業利益率を 20%にするために必要な売上高を計算しなさい。
- ②売上高が 20%下がった場合に営業利益をマイナスしない為には固定費をいくら削減すべきかを答えなさい。

情報を追加します。

さきほどの問題は平成 24 年度（第 1 期）とします。

決算日は 12/31 ですが 12 月中旬には、1 期の予想決算書ができあがったとしましょう。

翌年度からは営業部の依頼で予定計算を行う事になりました。

第 1 期の予想決算書に基づき、変動費と固定費の予定配賦率を求めましょう。営業部から上がってきた予想販売数（=予想生産数）は 5,000 です。

<第 136 回類題>

- ③予定生産量における変動加工費と固定加工費を求めなさい。

変動加工費		固定加工費	
-------	--	-------	--

※解答確認後 P 7 を参照して下さい。

- ④変動加工費と固定加工費の予定配賦率を求めなさい。

	予定配賦率
変動加工費	
固定加工費	

これが 136 回の元資料になります。

3. 先の資料に下記資料を加えて、第2期の全部原価計算と直接原価計算の損益計算書を作成しなさい

実際製造原価

原料費	500 円／個
変動加工費	1,068 円／個
固定加工費	4,360,000 円

実際販売費及び一般管理費

変動販売費	400 円／個
固定販売費	2,760,000
固定管理費	720,000

実際生産量・販売量

当期製品生産量	4,800 個
当期製品販売量	4,500 個

実際販売価格 4,920 円

※加工費は生産量に基づいて予定配賦し、すべての配賦差異を当期の売上原価に賦課している。

全部原価計算による損益計算書 (単位:円)

売上高	()
売上原価	()
配賦差異	()
売上総利益	()
販売費	()
一般管理費	()
営業利益	()

直接原価計算による損益計算書 (単位:円)

売上高	()
変動売上原価	()
変動製造マージン	()
変動販売費	()
貢献利益	()
固定費	()
営業利益	()

4. 最後に固定費調整

直接原価計算による損益計算書と全部原価計算による損益計算書の営業利益の差は261,600円である。これはどのような理由によるものであろう。「予定配賦かつ期末製品の在庫」を考慮する問題は日商2級では出にくいと思われるので、「実際配賦+期末製品の在庫」という仮定で以下の空欄を下の語群から埋めて下さい。

当月投入額は直接材料費 2,400,000、変動加工費 5,126,400、固定加工費は(①)であり、総額は(②)になります。

総額から、月末製品有高を計算すると 742,900 円、売上原価は 11,143,500 になります。この売上原価で営業利益を計算すると 5,716,500 となります。直接原価計算との営業利益との差は 272,500 円ちなります。この差は月末製品棚卸高に含まれる(③)と一致します。

直接原価計算では固定加工費は全額費用として計算されるが、全部原価計算では販売された分だけが費用となります。結果として今回のケースでは、直接原価計算の方が営業利益が(④)なります。

このことから、直接原価計算の営業利益から全部原価計算の営業利益を求めるには「全部原価計算の営業利益=直接原価計算の営業利益(⑤) 期末棚卸資産に含まれる固定製造間接費」という式が成り立ちます。

また、利益に対する期首製品の影響は期末製品の影響の逆に作用する事から、実際には「全部原価計算の営業利益=直接原価計算の営業利益(⑤) 期末棚卸資産に含まれる固定製造間接費(⑥) 期首製品に含まれる固定製造間接費」となります

<語群>
4,360,000
4,185,600
11,886,400
固定費
固定加工費
大きく
小さく
+
-

5. 本当の最後（気になる方へ）

日商簿記2級の受験には関係ないと思われる論点ですが・・・

今回の営業利益の差はなぜ 272,500 ではなく 261,600 円なのだろうか？

これは予定配賦によって計算された売上原価に配賦差異をすべて加算しているからです。配賦差異はそもそも投入額の差異から発生しており、であれば差異も本来は売上原価と期末棚卸高に按分する必要があります。ただ原価計算基準では、原則として全額を売上原価に加算するように要請されています。これは一般的には、差異金額は微少であること、また売上原価と比較して期末在庫の割合が低く按分計算しなくても影響が少ない事等が理由にあげられています。

今回の差異を売上原価と期末製品に按分すると、次のようになります。

原価 163,500、月末製品 10,900 円

売上原価に加算する（配賦する）差異は 10,900 円小さくなります。原価が小さくなると、（全部原価計算では）利益が大きくなります。

逆に言うと、予定配賦で全額を売上原価に加算している事により、通常よりも 10,900 円原価が増加します。従って、固定加工費を実際配賦するケースに比べて全部原価計算の営業利益は 10,900 円小さくなります。

結論です。

直接原価計算の営業利益	5,444,000
実際配賦時の固定製造間接費	272,500
予定配賦による固定製造間接費	△10,900
全部原価計算の営業利益	5,705,600

となります。

<参考：実際配賦時の損益計算書>

全部原価計算による損益計算書 (単位:円)		直接原価計算による損益計算書 (単位:円)	
売 上 高	(22,140,000)	売 上 高	(22,140,000)
売 上 原 価	(10,980,000)	変 動 売 上 原 価	(7,056,000)
配 賦 差 異	(163,500)	変 動 製 造 マー ジ	(15,084,000)
売 上 総 利 益	(10,996,500)	シ	
販 売 費	(4,560,000)	変 動 販 売 費	(1,800,000)
一 般 管 理 費	(720,000)	貢 献 利 益	(13,284,000)
営 業 利 益	5,716,500	固 定 費	(7,840,000)

<解答>

2. ① 33,300,000
② 1,512,000
③ 変動加工費 5,340,000、固定加工費 4,360,000
④ 変動加工費 1,068、固定加工費 872

3.

全部原価計算による損益計算書 (単位:円)		直接原価計算による損益計算書 (単位:円)	
売上高	(22,140,000)	売上高	(22,140,000)
売上原価	(10,980,000)	変動売上原価	(7,056,000)
配賦差異	(174,400)	変動製造マージン	(15,084,000)
売上総利益	(10,985,600)		
販売費	(4,560,000)	変動販売費	(1,800,000)
一般管理費	(720,000)	貢献利益	(13,284,000)
営業利益	<u>5,705,600</u>	固定費	(7,840,000)
		営業利益	(5,556,000)

4.

- ① 4,360,000 ② 11,886,400 ③ 固定加工費 ④ 小さく ⑤ + ⑥ -

変動加工費と固定加工費の区分

	直接費	間接費（変動費）	間接費（固定費）
材料費	1,800,000 700,000	<u>400,000</u>	
労務費	<u>3,500,000</u>	<u>1,250,000</u>	960,000 80,000
経費		<u>190,000</u>	2,950,000 370,000

網掛け部分が直接材料費、それ以外は加工費

下線は変動加工費

斜体は固定加工費